

令和4年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (西洋医学論) I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床上、頻度の高い各疾患について、西洋医学的な知識を深める。また、各疾患に対する現代西洋医学的な鍼灸治療法を学び、更に応用できるようにする。			評価方法			
授業概要	教科書をベースにした資料を配布し、講義を行う。徒手検査などは実際に実技を行い、理解と技術の習得を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	治療各論 : 肩こり②						
第2週	治療各論 : 頸肩腕痛①						
第3週	治療各論 : 頸肩腕痛②						
第4週	治療各論 : 肩関節痛①						
第5週	治療各論 : 肩関節痛②						
第6週	治療各論 : 上肢痛①						
第7週	治療各論 : 上肢痛②						
第8週	治療各論 : 腰下肢痛①						
第9週	治療各論 : 腰下肢痛②						
第10週	治療各論 : 腰下肢痛③						
第11週	治療各論 : 膝痛①						
第12週	治療各論 : 膝痛②						
第13週	治療各論 : 運動麻痺						
第14週	治療各論 : 高血圧症 低血圧症						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (東洋医学編) I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 疼痛に関するV～XIIIの疾患の鍼灸療法が説明できる。 2. 肝系統に関するI～IIIの疾患の鍼灸療法が説明できる。 3. 心系統に関するI～IIIの疾患の鍼灸療法が説明できる。			評価方法			
授業概要	1年生の東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるように、東洋医学領域の基礎知識の整理とともに、問題演習等を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 東洋医学概論、 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう 編)、 配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター、白板				
週							実施結果
第1週	治療各論 V. 頸肩腕痛 VI. 上肢痛 (配布プリント参照)						主要症候に対する鍼灸療法
第2週	治療各論 VII. 肩関節痛 (配布プリント参照)						
第3週	治療各論 VIII. 腰下肢痛 (配布プリント参照)						
第4週	治療各論 IX. 腰痛 (配布プリント参照)						
第5週	治療各論 X. 下肢痛 (配布プリント参照)						
第6週	治療各論 XI. 膝痛 (配布プリント参照)						
第7週	治療各論 XII. 胸痛 (配布プリント参照)						
第8週	治療各論 XIII. 腹痛 (配布プリント参照)						
第9週	治療各論 第2節 肝系統 I. 眼精疲労 (配布プリント参照)						
第10週	治療各論 II. 気分障害(うつ状態) (配布プリント参照)						
第11週	治療各論 III. めまい (配布プリント参照)						
第12週	治療各論 第2節 心系統 I. 動悸・息切れ (配布プリント参照)						
第13週	治療各論 II. 血圧異常 (配布プリント参照)						
第14週	治療各論 III. 睡眠障害 (配布プリント参照)						
第15週	治療各論 まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和4年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.内分泌系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 2.神経系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 3.感覚器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第7章 内分泌系 1 下垂体 2 松果体						
第2週	3 甲状腺 4 上皮小体						
第3週	5 副腎 6 膵臓 7 性腺						
第4週	第8章 神経系 1 神経系の構成 2 中枢神経 (1) 脊髄						
第5週	(2) 延髄と橋 (3) 中脳 (4) 小脳 (5) 間脳						
第6週	(6) 大脳 (7) 脳室系 (8) 髄膜 (9) 脳脊髄液 (10) 脳の血管						
第7週	中間試験						
第8週	3 伝導路 (1) 反射路 (2) 下行性伝導路 (3) 上行性伝導路						
第9週	4 末梢神経 (1) 脳神経						
第10週	(2) 脊髄神経 (3) 前枝と後枝						
第11週	(4) 上肢の神経 (5) 下肢の神経						
第12週	(6) 自律神経(交感神経、副交感神経)						
第13週	第9章 感覚器系 1 視覚器 (1) 眼球 (2) 眼球の付属器						
第14週	2 平衡感覚器 (1) 外耳 (2) 中耳 (3) 内耳 3 味覚器 4 嗅覚器						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床実習前施術実技試験	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	3年時の臨床実習や卒業後の臨床に備え、医療面接の手法、各種徒手検査の実施、治療方針決定から配穴まで、臨床の一連の流れについて理解し、実践できる様にする。			評価方法			
授業概要	配布するテキストをもとに座学を行い医療面接における基本を学習する。その後斑分けをしロールプレイを行い、実際の間診技法について練習を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	講義プリント配布	使用器材	液晶プロジェクター、配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス 医療面接について						
第2週	診療記録(カルテ)の意義、記入方法						
第3週	医療面接における各種手法①(医療面接時の態度など)						
第4週	医療面接における各種手法②(医療面接時の質問方法など)						
第5週	病態把握1(現代医学的病態把握の方法①)						
第6週	病態把握2(現代医学的病態把握の方法②)						
第7週	病態把握3(東洋医学的病態把握の方法①)						
第8週	病態把握4(東洋医学的病態把握の方法②)						
第9週	医療面接ロールプレイ①						
第10週	医療面接ロールプレイ②						
第11週	医療面接ロールプレイ③						
第12週	医療面接ロールプレイ④						
第13週	医療面接ロールプレイ⑤						
第14週	医療面接ロールプレイ⑥						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、効果的な医療面接の方法について検討し実践できるように努めること。						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学総論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院勤務6年(脳神経、鍼灸治療全般)	担当者	原 敬昌	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 医療面接、身体診察法を身につけ医学的臨床能力として活用できる。 2 医学的知識の補填に努め、これまでの単語や内容を全て口頭で説明できる。			評価方法			
授業概要	医療面接、現症から始まる診察の過程を学習し、さらに様々な症候をまなぶこと によって患者の持っている異常を的確に把握し、それに対する評価と正確な診断 のための計画の構築といった診断学の基本を学ぶ。後期では、これまでに得た身 体的診断に臨床検査を加え、鑑別診断から病態把握を理解させる。			期末試験 90%  課題提出 10%  (100点換算で60点以上は合格)			
教科書等	1)臨床医学総論 第2版	使用器材	PC及びタブレット、液晶プロジェクター、ホワイトボード				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	「前期試験の解説」						
第2週	「局所の診察;頭部、顔面」頭部の診察でみられる所見を確認しそれぞれが示す病態について学ぶ。 「症候論;頭痛、顔面痛」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.72-3, 182-5, p.124.						
第3週	「局所の診察;眼」視力、視野、眼球運動、眼球、眼瞼の診察で見られる所見を確認し病態について学ぶ。 「症候論;眼精疲労、眼振」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.74-8, 123, 125, 187, 252						
第4週	「局所の診察;耳鼻、口腔、咽頭」診察でみられる所見を確認し、病態について学ぶ。 「症候論;歯痛、鼻汁・鼻閉、めまい、耳鳴、難聴、嚔声、嚔下困難」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.78-84, 124-5, 186, 188-92, 254-5						
第5週	「局所の診察;胸部(肺)」胸郭形態の異常や肺野の打診、聴診の評価が示す病態について学ぶ。 「症候論;咳・痰、呼吸困難、血痰、喀血」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.23-5, 84-7, 195-8						
第6週	「局所の診察;胸部(心臓)」心尖拍動や心音の異常、心雑音が示す病態について学ぶ。 「症候論;動悸、胸痛、胸水」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)p.25, 169, pp.88-9, 198-202						
第7週	「局所の診察;腹部、背部」腹壁から観察される所見や腹部の聴診、打診の評価、圧痛点や腹膜刺激症 状が示す病態について学ぶ。「症候論;腹痛」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)p.26, pp.90-9, 203-6						
第8週	「局所の診察;脊柱、四肢」脊柱、四肢の変形が示す、局所のおよび全身的な病態について学ぶ。 教科書1)pp.100-4						
第9週	「神経学的診察;脳神経系の診察」神経系全体を系統別に分け、脳神経系の診察法と評価について学 ぶ。 教科書1)p.123-5						
第10週	「神経学的診察;運動系、感覚、反射」神経系全体を系統別に分け、(随意運動、不随意運動、協調運動 に対する)運動麻痺の診察法や感覚や運動の伝導路に基づいた評価について学ぶ。 教科書1)p.129-39, p.106-22.						
第11週	「神経学的診察;理学検査」これまでの神経学的診察に加えて、徒手筋力検査や整形外科的検査、髄膜 刺激症状について学ぶ。教科書1)pp.142-51						
第12週	「臨床検査法;全血球算定、髄液検査、生化学検査」血液検査に関する概要と、血球成分、髄液や血 清中にある成分や酵素が示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.162-3, p.175, 178, pp.248-9, pp.164-8, 176-80						
第13週	「症候論①」これまでに登場してこなかった症候(月経異常、不正性器出血、整形外科的疾患など)がみ られたときに鑑別するための病態や検査について学ぶ。 教科書1)pp.212-3, 223-30.						
第14週	「症候論②」これまでに登場してこなかった症候(のぼせ・冷え、疲労・倦怠、出血傾向、易感染性など)が みられたときに鑑別するための病態や検査について学ぶ。 教科書1)pp. 241-2, 243-4, 248-50						
第15週	「総まとめ」学習内容の補填や試験対策などを行う。						
授業外 学習指示等	1 これまでの診察法を用いた内容になりますので、前期で修めた内容を復習する必要があります。授業中についていけな かった範囲や忘れてしまった内容は全て洗い出し、ノートにまとめ、知識の補填に努めていきましょう。						

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	経絡経穴概論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	原 敬昌	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 陰陽五行について理解し、生体の構成や病理変化について、東洋医学的および中医学的観点から把握することができる。 2 基本的な弁証論治を学び、症候に基づいて選穴、配穴ができるようになる。			評価方法			
授業概要	経絡経穴概論Ⅰを踏まえて、さらに専門的な経絡経穴学を学習する科目である。本科目では、これまでに学習した東洋医学概論、鍼灸診断学の関連知識を用いて経絡経穴の治療上の臨床的な運用法を理解する。			期末試験 90% 課題提出 10% (100点換算で60点以上は合格)			
教科書等	1)新版 東洋医学概論 2)新版 経絡経穴概論、3)ツボ単	使用器材	ホワイトボード、PC及びタブレット、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	「ガイダンスと経絡経穴の概要」 経絡の種類と役割、経穴の意義について復習し、選穴と配穴に至るまでに必要な行程(診察)を確認する。 教科書1)pp.30-6, 150-60, 201-67, 2)pp.2-15, 212-4, 3)pp.xxviii-xxxv, pp.8, 78						
第2週	「気概念と陰陽五行」 古代中国哲学の陰陽論、五行論を復習し、気概念から生体を構成する五臓六腑の働きを学ぶ。 教科書1)pp.13-6, 37-149, 182-200						
第3週	「鍼灸治法と鍼灸処方概論」 中医学における鍼灸治療の概要を理解し、選穴および配穴の原則を理解する。 教科書1)pp.16-22, 34-6, 284-8, 298-306						
第4週	「鍼灸治則と弁証論治」 中医学における鍼灸治療の特徴と弁証論治の進め方を学ぶ。 教科書1)pp.16-22, 285-8, 307-11						
第5週	「八綱弁証と経穴」 8つの判断基準を用い人体の状況を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.270-3, 288-97, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第6週	「気血津液弁証と経穴」 生体の生体物質である気・血・津液の状況を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.273-5, 285-93, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第7週	「臓腑弁証と経穴①」 各臓腑の生理作用に基づき、現れた症候を分析、全体的な病機を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.275-80, 285-95, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第8週	「臓腑弁証と経穴②」 各臓腑の生理作用に基づき、現れた症候を分析、全体的な病機を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.275-80, 285-95, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第9週	「臓腑弁証と経穴③」 各臓腑の生理作用に基づき、現れた症候を分析、全体的な病機を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.275-80, 285-95, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第10週	「外感病に対する弁証と経穴」 外感病の進行過程で現れる症候を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.280-4, 295-97, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第11週	「経絡弁証と経穴」 経絡とそれに属する臓腑に関連する症候を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)p.157, 280, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第12週	「症例検討1」 これまでに学習した内容を踏まえて、提示された症例の弁証論治を行う。						
第13週	「症例検討2」 これまでに学習した内容を踏まえて、提示された症例の弁証論治を行う。						
第14週	「総まとめ」 学習内容の補填や試験対策などを行う。						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	1 東洋医学概論で学んだ内容を踏まえた授業内容になりますので、授業で理解不足だと感じた点や分からない単語はしっかり復習してノートにまとめましょう。 2 経穴全体の位置把握と要穴表の活用は経絡経穴の学習に置いて重要になりますので、経絡経穴図と要穴表の暗記に努めてください。						

令和4年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学各論 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床に必要な各臓器の主な疾患について概念、疫学、成因や病態生理、症状、診断および治療などについて詳しく教授する			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	呼吸器疾患 その1						
第2週	呼吸器疾患 その2						
第3週	呼吸器疾患 その3						
第4週	呼吸器疾患 その4						
第5週	腎、泌尿器疾患 その1						
第6週	腎、泌尿器疾患 その2						
第7週	腎、泌尿器疾患 その3						
第8週	内分泌疾患 その1						
第9週	内分泌疾患 その2						
第10週	内分泌疾患 その3						
第11週	内分泌疾患 その4						
第12週	代謝、栄養疾患 その1						
第13週	代謝、栄養疾患 その2						
第14週	整形外科疾患 その1						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和4年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学各論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床に必要な各臓器の主な疾患について概念、疫学、成因や病態生理、症状、診断および治療などについて詳しく教授する			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。臨床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	整形外科疾患 その2						
第2週	整形外科疾患 その3						
第3週	整形外科疾患 その4						
第4週	整形外科疾患 その5						
第5週	整形外科疾患 その6						
第6週	整形外科疾患 その7						
第7週	整形外科疾患 その8						
第8週	整形外科疾患 その9						
第9週	整形外科疾患 その10						
第10週	循環器疾患 その1						
第11週	循環器疾患 その2						
第12週	循環器疾患 その3						
第13週	血液・造血疾患 その1						
第14週	血液・造血疾患 その2						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						



令和4年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	生理学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	池田 沢子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	①感覚系の概要を理解し臨床と繋げて説明ができる。 ②生体防御(免疫系)の概要を理解し臨床と繋げて説明ができる。 ③生理学全体を総合的に理解し国家試験に向けた学習ができる。			評価方法			
授業概要	教科書をベースにした資料を配布し、講義を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第13章 感覚	感覚の分類と一般的性質					
第2週	第13章 感覚	体性感覚 内臓感覚					
第3週	第13章 感覚	痛覚					
第4週	第13章 感覚	味覚と臭覚					
第5週	第13章 感覚	聴覚 平衡感覚					
第6週	第13章 感覚	視覚					
第7週	第14章 生体の防御機構	生体の防御機構					
第8週	第14章 生体の防御機構	免疫反応①					
第9週	第14章 生体の防御機構	免疫反応②					
第10週	第15章 身体活動の協調						
第11週	総合復習①						
第12週	総合復習②						
第13週	総合復習③						
第14週	総合復習④						
第15週	総合復習⑤						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、生体のしくみについての知識を深めること。						

令和4年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	保健科学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在鍼灸施術院の院長	担当者	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 体のメカニズムや生理的・心理的変化を理解し、トレーニング指導ができる。 2 トレーニング内容を理解した上で、運動指導やアドバイス、機能改善することができる。			評価方法			
授業概要	解剖や生理、トレーニングの知識を理解し、臨床で臨機応変に適切な指導が行えるよう、基礎知識の理解に加え応用力を深めることを目的とする。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学/全部わかる人体解剖図/スポーツトレーニング理論	使用器材	提示装置				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	筋肉の生理的3大特徴						
第2週	トレーニング原則(全面性・個別性・過負荷・意識性・反復性・可逆性・特異性)						
第3週	トレーニング原則(全面性・個別性・過負荷・意識性・反復性・可逆性・特異性)						
第4週	トレーニングメニューの作成(運動の種類と強度)						
第5週	トレーニングメニューの作成(強度設定について、強度/時間/頻度/期間)						
第6週	トレーニングメニューの作成(強度設定について、強度の計算、心拍数設定とカロリー計算)						
第7週	エネルギー供給機構とダイエット						
第8週	トレーナーや鍼灸師の心理学的役割(アソシエーションとディソシエーションから)						
第9週	姿勢から見たトレーニング指導						
第10週	生活習慣と生活の癖(リズムと自律神経、成長ホルモン、食5行から)生活を書き出してみよう						
第11週	疲れのメカニズムと対処法						
第12週	呼吸と脈拍数と自律神経						
第13週	ウォーミングアップとクーリングダウン						
第14週	障害と水分補給(内科的急性疾患と慢性疾患、疲労骨折と悪性腫瘍)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	1 小テストを行う前には事前に復習を行うこと。 2 発表担当者は、事前に予習をし練習をしておくこと。						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中		佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 横刺旋撚刺法ができる。 2. 刺鍼中の手技を理解し、実践できる。 3. 深度と角度の正確な刺入ができる。 4. 刺鍼感覚を身につける。 5. 刺鍼を自ら体験し、技術にフィードバックができる。			評価方法			
授業概要	基本的な刺鍼技術を習得する。 刺鍼練習台および、人体刺鍼にて技術の精度を高める。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技<基礎編>	使用器材	刺鍼練習台セット、ディスプレイステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	前期の復習						
第2週	横刺旋撚刺法の要点と評価基準						
第3週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第4週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第5週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第6週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第7週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第8週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第9週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第10週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第11週	刺鍼中の手技						
第12週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第13週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第14週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1. 刺鍼練習台にて自主練習をするなど日々鍛錬を怠らないこと。 2. 闇雲に刺鍼練習をするのではなく、目的や目標を意識して練習に臨むこと。						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はり・きゅう実技 II	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中		佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 横刺送りこみ刺法ができる。 2. 短鍼の刺鍼ができる。 3. 深度と角度の正確な刺入ができる。 4. 刺鍼感覚を身につける。 5. 刺鍼を自ら体験し、技術にフィードバックができる。			評価方法			
授業概要	基本的な刺鍼技術を習得する。 刺鍼練習台および、人体刺鍼にて技術の精度を高める。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技<基礎編>	使用器材	刺鍼練習台セット、ディスプレイステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	前期の復習						
第2週	短鍼の刺鍼法						
第3週	横刺送りこみ刺法の要点と評価基準						
第4週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第5週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第6週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第7週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第8週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第9週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第10週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第11週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第12週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第13週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第14週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1. 刺鍼練習台にて自主練習をするなど日々鍛錬を怠らないこと。 2. 闇雲に刺鍼練習をするのではなく、目的や目標を意識して練習に臨むこと。						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 特殊鍼法の目的や手順を理解し、実践できる。 2. 目的に合わせた深度と角度で刺鍼できる。 3. 患者に適した刺鍼法が選択できる。 4. 安全管理をしながら施術ができる。 5. 施術を受けることにより患者側の立場を理解する。			評価方法			
授業概要	特殊鍼法を習得する。 デモンストレーションの後、2人1組になって施術を行う。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技<基礎編>	使用器材	ディスポーザブルステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	特殊鍼法						
第2週	小児鍼						
第3週	小児鍼						
第4週	皮内鍼						
第5週	円皮鍼						
第6週	灸頭鍼						
第7週	灸頭鍼						
第8週	長鍼						
第9週	鍼通電療法						
第10週	鍼通電療法						
第11週	鍼通電療法						
第12週	その他の特殊鍼法						
第13週	その他の特殊鍼法						
第14週	その他の特殊鍼法						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1. 講義に臨む前に基本的な鍼施術を鍛錬しておくこと。 2. 施術することだけに捉われず、施術者としての態度や患者への対応を常に考えながら臨むこと。						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 IV	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 主要な経穴の取穴ができる。 2. 刺鍼部位に適した深度と角度で刺鍼できる。 3. リスクとその対処法を理解し、実践できる。 4. 安全管理をしながら施術ができる。 5. 施術を受けることにより患者側の立場を理解する。			評価方法			
授業概要	基本的な人体刺鍼法を習得する。 デモンストレーションの後、2人1組になって施術を行う。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 経絡経穴概論、解剖学	使用器材	ディスプレイステルス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	前期の復習						
第2週	リスクと対処法						
第3週	前頭部の刺鍼						
第4週	頭頂部の刺鍼						
第5週	側頭部の刺鍼						
第6週	耳周囲の刺鍼						
第7週	顎部の刺鍼						
第8週	鼻周囲の刺鍼						
第9週	目周囲の刺鍼						
第10週	背部の刺鍼						
第11週	背部の刺鍼						
第12週	肩の刺鍼						
第13週	前頭部の刺鍼						
第14週	胸部の刺鍼						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1. 講義に臨む前に経穴の取穴部位と筋肉の走行を予習しておくこと。 2. 施術することだけに捉われず、施術者としての態度や患者への対応を常に考えながら臨むこと。						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 V	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 鍼灸臨床で頻用する経穴を取穴出来る。 2. 取穴した経穴に施灸できる。			評価方法			
授業概要	灸臨床に必要な各部位の取穴技術と基本的な施灸技術を修得する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ツボ単	使用器材	白板、ベッド、鍼灸治療道具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手厥陰心包経の前腕部の取穴と施灸						
第2週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手厥陰心包経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第3週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手厥陰心包経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第4週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陽三焦経の前腕部の取穴と施灸						
第5週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陽三焦経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第6週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陽三焦経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第7週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陽胆経の下腿部の取穴と施灸						
第8週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陽胆経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第9週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陽胆経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第10週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足厥陰肝経の下腿部の取穴と施灸						
第11週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足厥陰肝経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第12週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足厥陰肝経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第13週	ペーパーに施灸(半米粒大) トリガーポイントの探索と施灸(前腕部)						
第14週	ペーパーに施灸(半米粒大) トリガーポイントの探索と施灸(下腿部)						
第15週	ペーパーに施灸(半米粒大) トリガーポイントの探索と施灸(腰背部 若しくは前腕部・下腿部)						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 VI	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 鍼灸臨床で頻用する経穴を取穴出来る。 2. 取穴した経穴に施灸できる。			評価方法  定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	灸臨床に必要な各部位の取穴技術と基本的な施灸技術を修得する。						
教科書等	ツボ単	使用器材	白板、ベッド、鍼灸治療道具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陰心経の前腕部の取穴と施灸						
第2週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陰心経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第3週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手少陰心経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第4週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陽小腸経の前腕部の取穴と施灸						
第5週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陽小腸経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第6週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陽小腸経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第7週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陽膀胱経の下腿部の取穴と施灸						
第8週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陽膀胱経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第9週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陽膀胱経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第10週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陰腎経の下腿部の取穴と施灸						
第11週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陰腎経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第12週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足少陰腎経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第13週	ペーパーに施灸(半米粒大) 背部愈穴の取穴と施灸						
第14週	ペーパーに施灸(半米粒大) 背部愈穴の取穴と施灸						
第15週	ペーパーに施灸(半米粒大) 背部愈穴の取穴と施灸						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						



令和4年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床実習	授業時期	後期	授業時数	45
実務経験		担当者	太田和宏 他	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	実際の臨床現場でも用いられる様々な技術を身に付ける。			評価方法			
授業概要	担当教員が当日の施術について説明し、その後ペアを組み実際の治療と同様の流れで施術を進めていく。			レポート 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作成プリント	使用器材	施鍼灸道具・ライター・灰皿等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	温灸の概説 と 各メーカーの温灸比較						
第2週	生姜灸の概説 と 施術実技						
第3週	にんにく灸の概説 と 施術実技						
第4週	棒灸の概説 と 消化筒の作成 と施術実技						
第5週	和紙灸の概説 と 施術実技						
第6週	くるみ灸の概説 と 施術実技						
第7週	塩灸・枇杷の葉灸の概説 と 施術実技						
第8週	みそ灸の概説 と 施術実技						
第9週	押し灸 及び 器具を使ったお灸(箱灸・竹籠灸等)の概説 と 施術実技						
第10週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 咳嗽						
第11週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 眼						
第12週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 耳						
第13週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 鼻・口						
第14週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 頭部						
第15週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 風邪						
第16週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 消化器系						
第17週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 咽喉						
第18週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 運動器						
第19週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 神経系						
第20週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 精神症状						
第21週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 婦人科系1						
第22週	深谷灸法の対象疾患と使用経穴 婦人科系2						
第23週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						